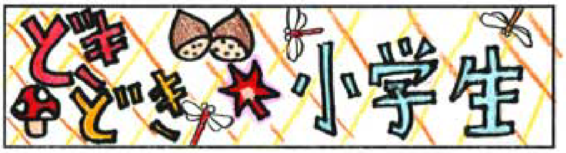
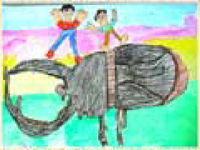
NIE特集
Newspaper In Education
毎月第2・4火曜日発行

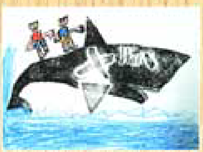


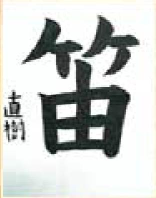
佐沼小

学校名　登米市立佐沼小学校
所在地　登米市迫町佐沼錦108
電　話　0220（22）2740
校　長　佐藤　信男
児　童　741人

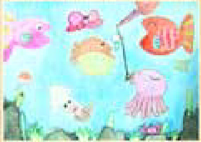
うきうきキャンバス

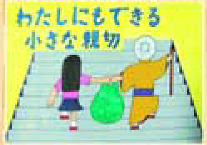

かぶとむしにのったよ
1年・佐々木凌雅

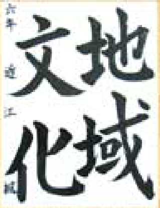

イルカとサーフィン
2年・加藤亜由斗



習字「笛」　5年・大場直樹


たくさんつれるかな
3年・畠中優太


わたしにもできる小さな親切
わたしにもできる小さな親切
4年・佐藤志真



習字「地域文化」　6年・近江楓

門前市に七福集まる

佐沼のお祭りの由来を探れ！

知り隊

わたしたちのすむ登米市佐沼には、春は鹿ケ城公園のさくら祭り、夏は佐沼夏祭り、秋は豊年かかし祭り、冬はどんと祭と、たくさんの祭りがあります。今回は、このうち新旧2つのお祭りについて由来や歴史を調べようと思い、佐沼大通り商店街協同組合理事の鈴木昇さんと武山栄昭さんにお話をうかがいました。

毎年7月の第4土、日曜日に行われるのが佐沼夏祭りです。場所は佐沼の中心部を南北に通る「七福通り」という古い商店街です。鈴木さんは「このお祭りは400年以上前の江戸時代から始まりました」と言い、武山さんは「この七福通りの名前も、夏祭りに由来しているんですよ」と教えてくださいました。

商店街を練り歩くちびっ子みこし（7月26日）

七福通りは、北に羽黒神社、南に津島神社があります。その間は約440㍍で、当時は地場産品が集散する門前市のにぎわいでした。稚児行列や巫女行列が行われ、見世物小屋が立ち、おはやしが鳴り、豊漁を願う気仙・三陸地方や近郊から大勢の人々が参拝して、人の波であふれました。

特産品の売り買いと暮らしの祈りの姿はまさしく「七福集まる人々の文化が華開いていたと言います。

現在は、この七福通りを子どもたちが各地区の子ども会で作ったちびっ子みこしを担ぎ、「わっしょい、わっしょい」の掛け声に合わせて練り歩きます。

かかし祭り 新名物に

次は、秋の豊年かかし祭りです。「七福通りを活気づけ、楽しいイベントをしたい」と、商店街の人たちが4年前から始めました。

今年の豊年かかし祭りに出品されたかかし

七福通りの一番東の津島神社の鳥居にも、宮司さんが作った大きなかかしがありました。今年は10月1日に行われ、120点のかかしの出品がありました。

◇　◇

わたしたちの地域には、多くの人々に愛され、大切にされてきたお祭りがあることを誇りに感じました。街を元気にしようと、新しく始まったお祭りもあります。これらのお祭りを、これからもずっと大切にしていきたいと思います。

文・富士原絵莉香、千葉陵弥、村上雄大、中村虹輝、高橋一希、佐藤歩、星希美（6年）

教え隊　合唱隊と吹奏楽部

昨年11月に行われたジョイントコンサート

コンクールで好成績

佐沼小の合唱隊は50年以上も続いており、現在は総勢41人です。夏休みに行われるＮＨＫ全国学校音楽コンクール宮城県大会には23年連続で出場しています。最近では２年連続銅賞という成績を上げています。結成23年目の吹奏楽部は、毎日32人の部員が練習に励んでいます。本年度は夏の地区コンクールで金賞を受賞し、宮城県大会に出場することができました。

合唱隊と吹奏楽部のジョイントコンサートが、来年２月６日に登米祝祭劇場で行われますので、ぜひおいでください。

文・丹野ちぐさ、鈴木翔太、佐藤壮留、田村麗奈（6年）

編集後記

この新聞作りをするにあたって、1学期の終わりから「どきどき小学生プロジェクト」を作り、活動してきました。どんな記事を書いたらいいのか、とても迷いました。佐沼を紹介する資料を集めたり、夏休みには登米市博物館に行ったりしました。みんなで考えた結果、わたしたちにとっての身近な行事であるお祭りの記事にすることにしました。

取材して気付いたことは、この佐沼には、まだわたしたちの知らない歴史がたくさんあったということです。新聞作りの楽しさも感じることができました。小学校生活のとてもいい思い出になりました。ありがとうございました。

〈編集委員〉丹野ちぐさ、佐藤歩、富士原絵莉香、千葉陵弥、村上雄大、中村虹輝、高橋一希、星希美、鈴木翔太、佐藤壮留、田村麗奈、高田泰成、鈴木領大郎、中村美律、黒沢季桜（6年）
題字デザイン　佐藤暉、佐藤美咲（6年）
〈指導教諭〉千葉恵理子、佐藤修

言い隊

■「あったか言葉」響く■

佐沼小では、本年度から「あったか言葉プロジェクト」を始めました。6年生と委員会の人たちが交代で朝、昇降口に立ち、「おはようございます」とあいさつします。以前は、声を掛けてもあいさつをしたり、しなかったり…。しかし、プロジェクトを始めてから、全校児童みんなが進んであいさつをするようになりました。ぼくもあいさつをしてもらうと、とてもうれしい気持ちになります。

このほかにも、～さんや、～君を付ける名前の呼び方や、「ありがとう」や「ごめんなさい」などのあいさつも行います。これからも「あったか言葉」が自然に響き渡る明るい学校にしていきたいです。

（6年・鈴木領大郎）

■歴史ある校歌 大切に■

みなさんの学校の校歌はどんな校歌ですか。佐沼小の校歌の作詞作曲は、音楽の教科書にも載っている、「箱根八里」を作詞した鳥居忱さんです。音楽の時間にこのことを教えられたとき、ぼくはびっくりしたと同時に佐沼小の歴史の重さを感じました。ぼくは校歌の歌詞の中の「佐沼川」と「鹿ケ城」のところが好きです。歌うたびにその場所が目に浮かんでくるからです。

朝会では、全校児童で校歌を歌いますが、最近は「卒業までみんなで歌えるのはあと何回なのかなあ」とちょっぴり寂しい気持ちになります。来春の卒業式には、大好きな校歌を気持ちを込めて歌いたいと思います。

（6年・高田泰成）

次回（12月22日）は、増田小（名取市）と六郷小（仙台市）です。